201405021A

厚生労働科学研究費補助金
厚生労働科学特別研究事業

G8認知症サミット日本後継イベントにおけるテーマ「新しいケアと予防」を日本が提唱するための調査研究

平成26年度　総括研究報告書

研究代表者　本間　昭

平成27(2015)年3月

厚生労働科学研究費補助金
厚生労働科学特別研究事業

G8認知症サミット日本後継イベントにおけるテーマ「新しいケアと予防」を日本が提唱するための調査研究

平成26年度　総括研究報告書

研究代表者　本間　昭

目　次

Ⅰ．総括研究報告

G8 認知症サミット日本後継イベントにおけるテーマ「新しいケアと予防」を日本が提唱するための調査研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

本間　昭

Ⅱ．研究成果の刊行物・別刷・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

資料１．認知症サミット日本後継イベント：新たなケアと予防のモデル

プログラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

資料２．専門分科会発表資料 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

資料３．本会議発表資料 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・183

厚生労働科学研究費補助金（厚生労働科学特別研究事業）

総括研究報告書

G8認知症サミット日本後継イベントにおけるテーマ「新しいケアと予防」を日本が提唱するための調査研究

研究代表者　本間　昭　認知症介護研究・研修東京センター　センター長

研究要旨

平成25年12月11日に英国ロンドンで「G8認知症サミット（G8 Dementia Summit）」が開催され、G8各国、欧州委員会、WHO、OECDの代表が出席し、世界的な共通課題である認知症対策について、各々の取組を紹介するとともに、「宣言(Declaration)」と「共同声明(Communique)」が出され、平成26年度に我が国において「新しいケアと予防」をテーマに本サミットの後継イベントが開催されることが予定された。そこで、本研究ではこの後継イベントに先立ち、複数の専門分科会を開催し、現在各国で進められている認知症の予防とケアに関する新たなモデルの状況、およびこれらの取組みの科学的根拠や成果指標の開発と実践についての研究の状況を明らかにすることを目的とした。

2日間にわたるディスカッションを通じ、共通する大きな課題として挙げられたのは認知症に関する理解の促進であり、わが国で実施している認知症サポーター養成事業に高い関心が寄せられた。ケアの質の評価に関しては、参加者間では必ずしも十分なコンセンサスには至らず、人材育成については、今後急速に増加する認知症ケアのニーズにいかにタイムリーに対応できるかが課題として指摘された。認知症の予防では、発症遅延の可能性が示されたものの、介入研究結果として十分なエビデンスが得られていない現状が指摘されるなど、認知症ケアの予防と現状について参加者間で共通の認識を持つことができた。

この会議を受け、我が国では平成27年1月に新オレンジプランが策定されており、今後はその展開に期待が寄せられる。

Ⅰ．総括研究報告

A．研究目的

認知症は我が国のみならず、世界規模の大きな問題である。2012 年の世界アルツハイマー協会の報告書には、2010 年時点で 3560 万人の認知症者が存在し、そのコストは毎年 6040 億ドル（約 50 兆円）にのぼるとされている。根本的な治療法が未だない認知症においてはケアにかかる費用は多大であり、また予防のための総合的かつ協調的なアプローチが必要とされているところである。

平成 25 年 12 月 11 日、英国・ロンドンで「G8 認知症サミット」が開催され、G8 各国、欧州委員会、WHO、OECD の代表が出席し、世界的な共通課題である認知症対策について、各々の取組を紹介するとともに、出席者による熱心な意見交換が行われた。その場において、「宣言（Declaration）」及び「共同声明（Communique）」がだされ、平成 26 年度に、本サミットの後継イベントが行われることが予定された。これを受け、平成 26 年にわが国において「新しい認知症のケアと予防」をテーマとした後継イベントが開催されることとなった。

本研究では、この後継イベントに先立ち、複数の専門分科会を開催し、各専門テーマ別に G8 の行政担当者および研究者の発表とディスカッションを行う。分科会における発表等を通して、現在各国で進められている認知症の予防とケアに対する新たなモデルの状況、およびこれらの取り組みの科学的根拠や成果指標の開発と実践についての研究等の状況を明らかにする。最も効果的な予防・ケアのモデルや、その評価についての共通認識を得るための国際的な共同研究の枠組み、および認知症対策の先進国が G8 関係国以外も含めて今後認知症問題に直面する国々へどのように経験を移転し、そのモデルを示すか、について、実現可能な解決策を提案する。この結果を踏まえ、確立した研究成果を我が国の認知症施策における、ケアと予防へ資するとともに、世界の最長寿国であるわが国から発信し、世界に広げることにつなげる。

B．研究方法

下表に示す研究組織を作り、それぞれの視点から後継イベントで報告される内容について検討を加えた。分科会は①各国の認知症の予防とケアの現状報告、②認知症予防とケア：適時適切な支援の提供、③認知症予防とケアの科学的側面、④認知症の人が地域で暮らす、⑤認知症に関する理解の促進や教育の推進の５つが行われる予定であった。さらに、OECD シンポとして、医療の質のレビュー公表イベントが開催される。これらの分科会における発表等を通して、現在各国で進められている認知症の予防とケアに対する新たなモデルの状況およびこれらの取り組みの科学的根拠や成果指標の開発と実践についての研究等の状況を明らかにすることができる。

最も効果的な予防法、ケアのモデルやその評価についての共通認識を得るための国際的な共同研究の枠組みおよび認知症対策の先進国が Ｇ８関係国以外も含めて今後認知症問題に直面する国々へどのように経験を移転するかについて、実現可能な解決策を提案する。分科会はそれぞれ 120 分から 150 分。座長は国内外から１人ずつ計２ 人で行う。演者は１人 30 分で３ 人を予定。可能な限り総合討論の時間を長くとる。会場は定員 100 人程度を３つ使用する。録音・録画した内容は記録メディアに保存し、別にテキストに起こす。これらの成果を分担研究者と共有しテーマごとに総括し、実現可能な解決策を、国内外に提案する。

＜研究組織＞

本間　昭 （認知症介護研究・研修東京センター）
粟田　主一 （東京都健康長寿医療センター研究所）
繁田　雅弘 （首都大学東京人間科学研究科）
鳥羽　研二 （国立長寿医療研究センター）
進藤　由美 （認知症介護研究・研修東京センター）

なお、後継イベントは厚生労働省、独立行政法人国立長寿医療研究センター、社会福祉法人浴風会認知症介護研究・研修東京センターの共催で実施した。

C．研究結果

認知症サミット日本後継イベント「新たなケアと予防のモデル 」プログラムは報告書の資料１に示した。専門分科会の発表で

使われた資料は資料２のようであった。本会議は５つの専門分科会ごとにそれぞれをまとめる形で発表が行われた。そのときに用いられた資料は資料３のようであった。分科会と本会議での発表の総括は閉会時の三浦老健局長の発表に示されている通り。

本年１月にわが国では新オレンジプランが公表されたが、いくつかの点を除きこのたびの後継イベントで認知症ケアと予防をめぐる各国の状況が示された。共通する大きな課題の１つは認知症に関する理解の促進が今回の参加国でも優先順位の高い課題だったが、発展途上国においてはさらに大きな課題であることが参加者のなかで共有できた。わが国では、この目的のために認知症サポーターの養成に係る事業が行われているが、各国から大きな関心が寄せられ、英国ではすでにわが国の活動を手本とした事業が始められていることが紹介された。認知症に関する理解の推進は新オレンジプランの１つ目の柱に掲げられているが、今後、すべての関係者を対象とした広範かつ積極医的な活動が望まれる。ケアの質の評価に関しては、わが国の新オレンジプランでも今後の課題として示されているが、参加者の間では必ずしも十分なコンセンサスにはいたらなかった。人材育成ではわが国のシステムが紹介され、一定の評価を受けたが、今後急速に増加する認知症ケアのニーズにいかにタイムリーに対応できるかが課題となった。特に、人材育成は開発途上国に対する支援のあり方が大きなテーマであった。認知症の予防では、発症遅延の可能性は示されるものの、介入研究結果として十分なエビデンスが得られていない現状が指摘された。

D．考察

結果で示されているように認知症のケアと予防の現状について参加者間で共通の認識をもつことができたが、本会議の冒頭の安倍総理大臣の挨拶のなかで、認知症は厚生労働省のみではなく多省庁横断的な取り組みが必要であることが示された。今後のわが国の政策を進める上で重要なキーワードであろう。特に、開発途上国に対する支援のあり方に関しては有効な議論が今まで行われていない。認知症ケアに関して十分な経験を有するわが国の貢献が望まれる。

E．結論

認知症ケアの質の評価ならびに認知症の発症遅延方法に関しては各国の文化的要因が大きく影響するが、まず認知症の理解を推進することが重要であることに関してコンセンサスが得られた。

F．健康危険情報

なし

G．研究発表

なし

H．知的財産権の出願・登録状況

なし

Ⅱ．研究成果の刊行物・別刷

資料１．認知症サミット日本後継イベント：新たなケアと予防のモデルプログラム

資料２．専門分科会発表資料

資料３．本会議発表資料

資料１

Global action against dementia

認知症サミット日本後継イベント

－新たなケアと予防のモデル－

11月5日（水）	専門分科会
	日本政府主催レセプション
11月6日（木）	本会議
11月7日（金）	視　察

会場：六本木アカデミーヒルズ（東京都港区）

厚生労働省

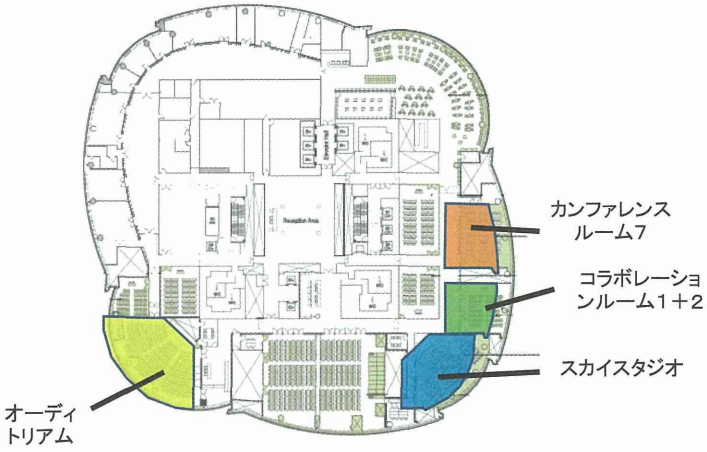
独立行政法人
国立長寿医療
研究センター

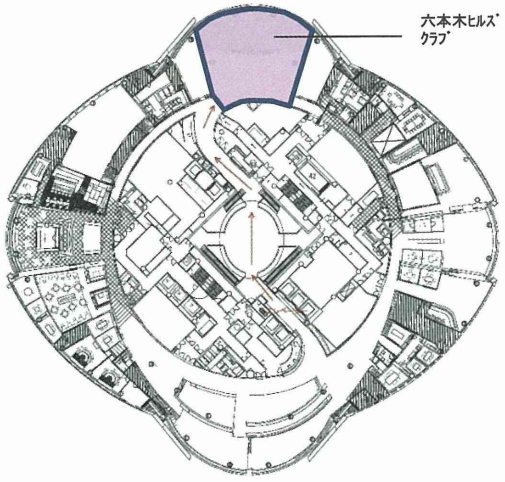
社会福祉法人浴風会
認知症介護研究・研修
東京センター

Global action against dementia

1日目: 11月5日(水)　会場情報

	第1日　11月5日(水)　専門分科会　ホール使用割り 49F				51F
時間	オーディトリアム	スカイスタジオ	コラボレーションルーム 1＋2	カンファレンスルーム7	六本木ヒルズクラブ
9時	受付				
	9:30 イントロダクション 10:00	9:30 オーディトリアム配信 11:30		9:30 ブース・ポスター展示 12:15	
10時	10:00 セッション0 11:30		10:00 OECD「医療の質のレビュー公表イベント」 11:45		
11時	11:30 昼食・休憩 13:00				11:30 ランチミーティング 13:00
12時				12:15 自由討議 13:00	
1時	13:00 セッション1 15:00	13:00 セッション2 15:00		13:00 ブース・ポスター展示 17:30	
2時					
3時	15:00 休憩 15:30				
	15:30 セッション3 17:30	15:30 セッション4 17:30			
4時					
5時					
6時					18:00 日本政府主催レセプション 20:00
7時					



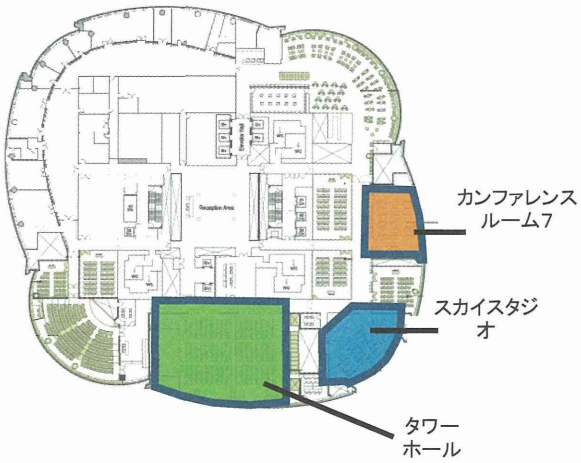


49F　　51F

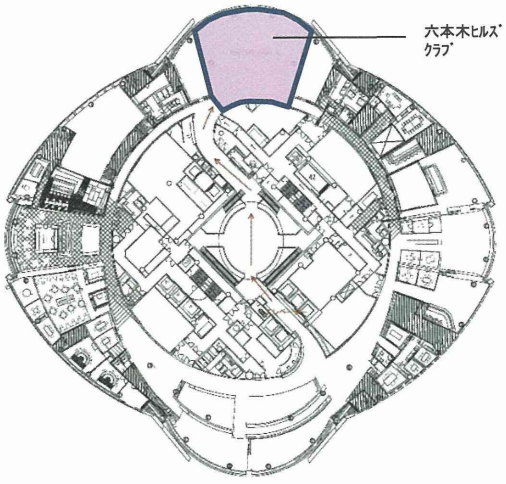
Global action against dementia

2日目: 11月6日(木)　会場情報

	第２日　11月６日（木）　本会議　ホール使用割り			51F
時間	タワーホール	スカイスタジオ	カンファレンスルーム7	六本木ヒルズクラブ
8時	受付			
9時	9:00 開会 9:30 9:30 OECD 基調講演 10:00	9:30 ICTロボット展示	9:30 ブース・ポスター展示	
10時	10:00 トピック１ 11:15			... ...
11時	11:15 休憩 11:30 11:30 トピック2 12:45			
12時	12:45 昼食・休憩 14:15	13:15 実演 14:15		12:45 ランチミーティング 14:15
1時				
2時	14:15 トピック3 15:30	ICTロボット展示 17:00		
3時	15:30 休憩 15:45 15:45 トピック4 17:00			... ...
4時				
5時	17:00 閉会 17:30			



49F



51F

Global action against dementia

認知症サミット日本後継イベント

－新たなケアと予防のモデル－

2014年11月5～7日　東京

Global action against dementia

Wi-Fi

49階では無料でWiーFiが使用できます

Global action against dementia

1日目: 11月5日(水)　専門分科会

9:30 ～10:00	ウエルカムアドレス　オーディトリアム		
	三浦　公嗣(厚生労働省老健局長)		
	鳥羽　研二(独立行政法人国立長寿医療研究センター総長)		
	黒川　清(世界認知症会議　委員)		
	横倉　義武(日本医師会会長)		
	Shekhar Saxena (WHO本部精神保健部部長)		
	山本　朋史(週刊朝日記者)		
10:00 ～ 11:30	セッション-0 各国の認知症の予防とケアの現状報告 (10:00～11:30)　オーディトリアム 各国の認知症の人、ケアと予防に関する施策・システムの概要についての報告を行い、各国の政策の動向についての共通理解を図る。	10:00 ～ 11:45	OECD「医療の質のレビュー公表イベント」 (10:00～11:45)　コラボレーションルーム1+2 OECDは、日本を含むOECD諸国の医療の質と関連政策について審査と評価を行っている。OECDによる日本のレビューの調査結果の発表の後、パネリストが日本の医療の現状及び今後の課題について議論する。報告書の全体版は数ヶ月以内に発刊される予定。
	【座長】鳥羽　研二(独立行政法人国立長寿医療研究センター)		【開会】牛尾 光宏(厚生労働省)
	【座長】Christian Berringer (厚生省, 独)		【挨拶】Mark Pearson (OECD)
	Charles Alessi (イングランド公衆衛生サービス, 英)		【発表】Francesca Colombo (OECD)
	Yves Joanette (カナダ保健研究機構& モントリオール大学, 加)		【司会】熊川　寿郎(国立保健医療科学院)
	Etienne Hirsch (国立保健医学研究機構 ,仏.)		今村 聡 (日本医師会)
	Kenneth Earhart (保健福祉省, 米)		福井 次矢(聖路加国際病院)
	Teresa Di Fiandra (健康省, 伊)		松田 晋哉(産業医科大学)
	Jürgen Scheftlein (EU)		今中 雄一(京都大学)
	水谷 忠由 (厚生労働省)		武田 俊彦(厚生労働省)
11:30 ～ 13:00	関係者交流昼食会　(六本木ヒルズクラブ) 12:15～13:00　ブース・ポスター展示会場にて自由討議(カンファレンス7)		福島 靖正(厚生労働省)
			【閉会】大鶴 知之(厚生労働省)

※当該プログラムにおける海外登壇者の所属名は仮訳である。

3

Global action against dementia

1日目: 11月5日(水)　専門分科会		
13:00 ～ 15:00	セッション-1 認知症予防とケアー適時適切な支援の提供 (13:00～15:00) オーディトリアム 予防・ケアの新たなモデルについて、認知症の時間的経過に即した観点から検討することを目的とする。 早期の診断から初期対応、予防、診断後の支援からターミナルケアに至る各段階における介入・支援の形態と各主体の連携方策についての新たなモデルを見出す。	セッション-2 認知症予防とケアの科学的側面 (13:00～15:00) スカイスタジオ 従来、経験に多くを依存していた認知症の予防やケアの分野において、客観性を確保するための取組みが進められている。 認知症の予防やケアに関し、各地で進められている実証的研究から、科学的な根拠に関する現在の知見を共有し、今後の施策への活用の可能性や、今後進むべき研究の方向についての示唆を得る。
	【座長】長谷川 和夫(社会福祉法人浴風会認知症介護研究・研修東京センター)	【座長】鈴木 隆雄(独立行政法人国立長寿医療研究センター)
	【座長】Yves Joanette (カナダ保健研究機構& モントリオール大学, 加)	【座長】Martin Prince (キングス・カレッジ・ロンドン,英)
	山口 晴保(群馬大学)	Vladimir Hachinski (ウェスタンオンタリオ大学,加)
	大河内 二郎(公益社団法人 全国老人保健施設協会)	Piu Chan (北京首都医科大学)
	池田 学(熊本大学)	柳澤 勝彦(独立行政法人国立長寿医療研究センター)
	Charles Alessi (イングランド公衆衛生サービス, 英)	Liang-Kung Chen (台北退役軍人病院老年医学センター, 台湾)
	Howard Bergman (マギル大学, 加)	島田 裕之(独立行政法人国立長寿医療研究センター)
	Florence Pasquier (レジオナル・ユニヴェルシテール・ド・リール総合病院, 仏)	Dawn Brooker (ウースター大学,英)
	Peter Whitehouse (ケースウェスタンリザーブ大学, 米)	Graham Stokes (Bupa)
	Francesca Colombo (OECD)	数井 裕光(大阪大学)
15:00 ～ 15:30	*休憩*	

Global action against dementia

1日目: 11月5日(水)　専門分科会		
15:30 ～17:30	セッション-3 認知症の人が地域で暮らす (15:30～17:30) オーディトリアム 認知症の人々は、診断を受けた後も継続して自らの生活を営めることが重要であり、このための新たな取組みが進められている。 これらの取組みについての現在の知見を共有し、今後の施策への活用の可能性や、今後の方向についての示唆を得る	セッション-4 認知症に関する理解の促進や教育の推進 (15:30～17:30) スカイ スタジオ 認知症に関するスティグマを防止するため、啓発活動が重要であるが、啓発を実際の行動変容につなげるための様々な新たな取組が行われており、その可能性を探る。 認知症に関する診断、予防、ケアの知識・技術については、保健医療介護関係者に広く浸透することが重要であり、一部の専門家からより広範な関係者への知識の共有が必要である。また、すでに高齢化に直面している国から今後認知症問題へ直面する国々への知識・経験の共有が重要である
	【座長】神崎 恒一(杏林大学)	【座長】本間 昭 (社会福祉法人浴風会認知症介護研究・研修東京センター)
	【座長】Beth Kallmyer (アルツハイマー協会, 米)	【座長】Marc Wortmann (国際アルツハイマー病協会)
	Jean Georges (アルツハイマーヨーロッパ)	Gillian Ayling (保健省,英)
	粟田 主一(地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター)	Sabine Jansen (アルツハイマー協会,独)
	Annette Pauly (連邦家庭・高齢者・女性・青少年省, 独)	Michael Splaine (国際アルツハイマー病協会)
	Jeremy Hughes (アルツハイマーソサエティ, 英)	Tasanee Tantirittisak (プラサット神経研究所,タイ)
	高見 国生(認知症の人と家族の会)	新田 國夫(医療法人社団つくし会)
	Ki Woong Kim (国立認知症研究所,韓国)	斉藤 訓子(日本看護協会)
	内海 久美子(砂川市立病院)	永田 久美子(社会福祉法人浴風会認知症介護研究・研修東京センター)
	大谷 るみ子(大牟田市認知症ライフサポート研究会)	遠藤 英俊(独立行政法人国立長寿医療研究センター)

1日目: 11月5日(水)　政府主催レセプション	
18:00 ～20:00	*六本木ヒルズクラブ(51階)* 【歓迎挨拶】　塩崎 恭久(厚生労働大臣)

5

Global action against dementia

1日目: 11月5日(水)　ブース・ポスター展示 (カンファレンスルーム7)			
		ブース	ポスター
9:30 ～17:30	1	• 国際アルツハイマー病協会	• 公益社団法人 認知症の人と家族の会
	2	• 国際大学グローバル・コミュニケーション・センター • 認知症フレンドリージャパン・イニシアチブ	• 認知症介護・研究研修センター(東京, 大府, 仙台)
	3	• 公益社団法人 日本精神科病院協会	• 公益社団法人 全国老人保健施設協会
	4	• 公益社団法人 日本老年精神医学会 • 一般社団法人 日本認知症ケア学会	• 公益社団法人 日本認知症グループホーム協会
	5	• 独立行政法人 国立長寿医療研究センター	• 独立行政法人 国立長寿医療研究センター バイオバンク
	6	• 独立行政法人 国立精神・神経医療研究センター	• 認知症医療介護推進会議
	7	• 認知症フォーラム.com	
	8	• OECD	
	9	• NPO法人ハート・リング運動	
	10	• リハビリテーション専門職団体協議会 一般社団法人 日本作業療法士協会 公益社団法人 日本理学療法士協会 一般社団法人 言語聴覚療法士協会	

※ 自由討議 12:15 から 13:00 まで

Global action against dementia

2日目: 11月6日(木)　　本会議　(タワーホール)	
9:00 ～9:30	開　会
	塩崎　恭久(厚生労働大臣)
	黒川　清(世界認知症会議委員)
	Dennis Gillings (世界認知症特使)
	Mark Walport(英国政府首席科学顧問)
	Shekhar Saxena (WHO本部精神保健部部長)
	中村　重信(認知症の人と家族の会顧問)
	藤田　和子(日本認知症ワーキンググループ共同代表)
	*他の演者は現在調整中
9:30 ～10:00	基調講演:「認知症における尊厳:認知症の人の生活を政策でいかに改善できるか」 Mark Pearson(OECD)
	Shekhar Saxena (WHO)
10:00 ～11:15	トピック1:地域における認知症予防とケア～認知症の状態に応じた適切な予防とケア 前日の最初のセッションの各国の現状報告、OECDの報告から、現状に対し共通の認識をしたうえで、前日のセッション1で話し合われた地域における適時適切な予防とケアについても各スピーカーから話をしてもらう
	鳥羽　研二(独立行政法人国立長寿医療研究センター)
	Christian Berringer (厚生省, 独)
	Yves Joanette (カナダ保健研究機構& モントリオール大学, 加)
	長谷川　和夫(社会福祉法人浴風会認知症介護研究・研修東京センター)
	Jacqueline Hoogendam　(福利・厚生・スポーツ省,オランダ)
	Jeremy Hughes (アルツハイマーソサエティ, 英)
	Geoff Huggins (Acting Director of Health and Social Care Integration, スコットランド)
	Etienne Hirsch (国立保健医学研究機構,仏)
	Jeff Huber (Home Instead株式会社,米)
11:15 ～11:30	休憩(スライドショー　國森康弘　写真家)
11:30 ～12:45	トピック2:　認知症予防とケアへの科学的アプローチ 前日のセッション2でまとめられた認知症予防とケアの科学的側面について各学会や研究者から、研究の最前線の話を各演者から話をしてもらう
	鈴木　隆雄(独立行政法人国立長寿医療研究センター)
	Martin Prince (キングス・カレッジ・ロンドン,英)
	原山　優子(総合科学技術・イノベーション会議)
	森　啓(大阪市立大学)

Global action against dementia

2日目: 11月6日(木)　本会議　(タワーホール)	
11:30 ～12:45	Philippe Amouyel (アルツハイマー病対策財団, 仏)
	Yves Joanette (カナダ保健研究機構& モントリオール大学, 加)
	大内　尉義(虎の門病院)
12:45 ～14:15	関係者交流昼食会　(六本木ヒルズクラブ　51階) スライドショー　(タワーホール　國森康弘、Cathy Greenblat) ロボット展示会場において、デモンストレーション　(スカイスタジオ)
14:15 ～15:30	**トピック3:認知症にやさしいコミュニティとICTの活用** 前日のセッション3でまとめられた、認知症の人と、地域社会の在り方について概観し、認知症にやさしいコミュニティに関して話をしてもらう。そのような社会実現のために、IT等の新たなテクノロジーは何ができるか、についても、関連省庁や企業代表などから話をしてもらう。
	粟田　主一(東京都健康長寿医療センター研究所)
	神崎　恒一(杏林大学)
	片山　禎夫(認知症の人と家族の会)
	奥　公一　(NPO 町田市つながりの開)
	Marc Wortmann (国際アルツハイマー病協会)
	五島　清国　(テクノエイド協会)
	井上　剛伸　(国立障害者リハビリテーションセンター研究所)
	新美　芳樹 (厚生労働省)
	Peter Whitehouse (ケースウェスタンリザーブ大学, 米)
15:30 ～15:45	休憩(スライドショー　Cathy Greenblat　ラトガーズ大学名誉教授)
15:45 ～17:00	**トピック4:将来に向けた課題** 認知症予防・ケアの新たなモデルに関して今後の展開等について検討する
	本間　昭(社会福祉法人浴風会認知症介護研究・研修東京センター)
	Marc Wortmann (国際アルツハイマー病協会)
	Tom Wright　(Age UK)
	二宮　利治(九州大学)
	Mark Pearson (OECD)
	菅原　弘子(地域ケア政策ネットワーク)
	Jean Georges (アルツハイマー,ヨーロッパ)
	Jürgen Scheftlein (EU)
	Jon Rouse (保健省,英)
	Shekhar Saxena (WHO)

Global action against dementia

2日目: 11月6日(木)　本会議　(タワーホール)	
17:00 ～17:30	閉会
	Kenneth Earhart (保健福祉省, 米)
	三浦　公嗣(厚生労働省　老健局長)
	黒川　清(世界認知症会議)
	塩崎　恭久(厚生労働大臣)
	*他の演者は現在調整中

2日目: 11月6日(木)　ブースとポスター展示　(カンファレンスルーム7)			
		ブース	ポスター
9:30 ～17:00	1	• 国際アルツハイマー協会	• 公益社団法人　認知症の人と家族の会
	2	• 国際大学グローバル・コミュニケーション・センター • 認知症フレンドリージャパン・イニシアチブ	• 認知症介護研究・研修センター(東京, 大府, 仙台)
	3	• 公益社団法人　日本精神科病院協会	• 公益社団法人 全国老人保健施設協会
	4	• 公益社団法人　日本老年精神医学会 • 一般社団法人　日本認知症ケア学会	• 公益社団法人 日本認知症グループホーム協会
	5	• 独立行政法人　国立長寿医療研究センター	• 独立行政法人　国立長寿医療研究センター　バイオバンク
	6	• 独立行政法人　国立精神・神経医療研究センター	• 認知症医療介護推進会議
	7	• 認知症フォーラム.com	
	8	• OECD	
	9	• NPO法人ハート・リング運動	
	10	• リハビリテーション専門職団体協議会 一般社団法人　日本作業療法士協会 公益社団法人　日本理学療法士協会 一般社団法人　言語聴覚療法士協会	

2日目: 11月6日(木)　ロボット展示　(スカイスタジオ)	
9:30 ～ 17:00	• Pepper (ソフトバンクロボティクス株式会社)
	• ナイトケアロボット • バランス練習アシスト　(トヨタ自動車株式会社パートナーロボット部)
	• パロ(産業総合研究所)
	• PaPeRo R500(国立障害者リハビリテーション研究所)
	• PALRO(富士ソフト株式会社)

9

※　特別デモンストレーション13:15 ～ 14:15

資料２